

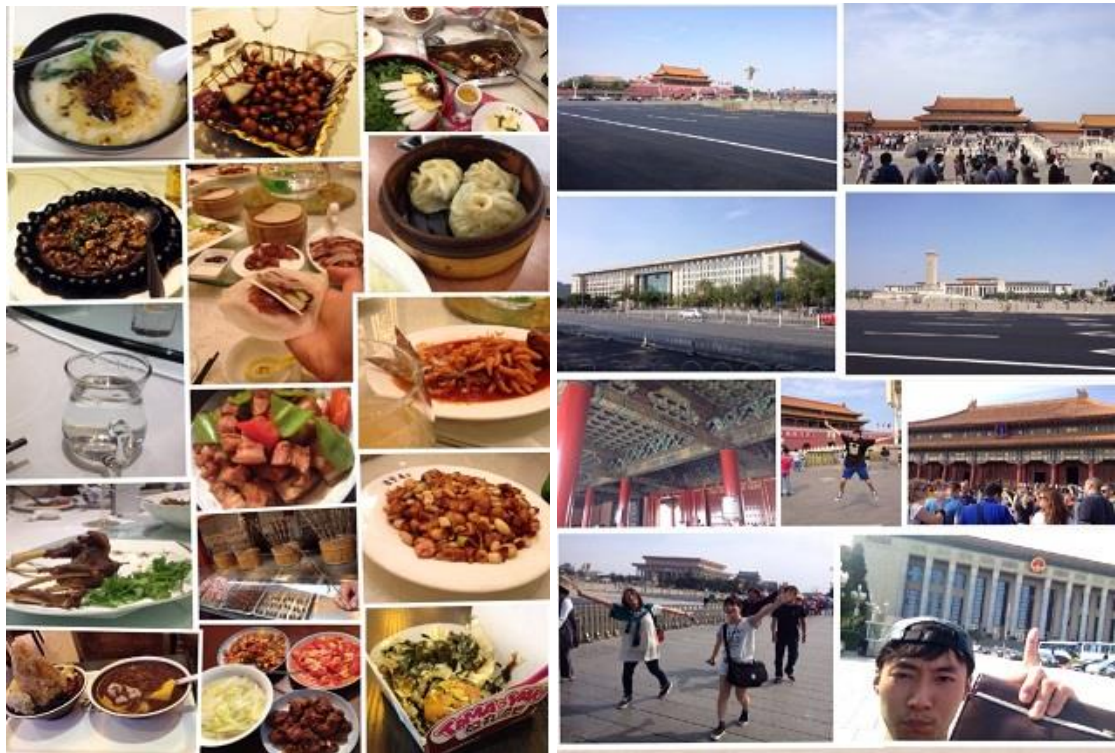
通訳としても、僕も最高に楽しかった。

言語が通じっていないと、外国に行くことが難しいと思っている方が多いではないかと思いますが、留学の経験者とする私は「決してそうじゃない!」と言えます。今回の日中セミナーを通して、「もっと知りたい、経験したいと、飛び出そうとする気持ちさえあれば、この旅も既に始まった」と日本側の皆さんも感じていたと思います。

北京に行く前に、プレゼンテーションを作るための取材、現地調査を始め、パワーポイントの作成やプレゼンの打ち合わせなど、様々な準備を皆でしました。また、行く直前まで私の所に中国の事を聞いた方もいらっしゃいました。不安でもあり、好奇心でもあります。旅に対するワクワクする気持ちを私に伝わっていました。

正直に言うと、プレゼンに皆さん結構苦労しました。うまく伝えるように発表する直前まで、何回も何回も修正したり、練習したりしました。その中には通訳の私の責任も大半あると思っていますが、結果として良かったと思います。人民大学の先生と学生さんは私たちよりしっかりしている感じにも関わらず、すごく丁寧で優しく対応して頂いて、プレゼンとディスカッションから、私も実感的に大変勉強になりました。

学術の交流に続き、「北京現代」車工場と「燕京ビール」工場で見学し、異文化の体験として、北京で観光しました。「万里の長城」、「天安門」、「故宮」そして商店街の「王府井」、中国人とする私さえ言葉にできない風景の前に、日本人の皆さんはどう言う風に語ろうでしょう。中華料理のレストランで初めて「麻婆豆腐」、「八宝菜」、「棒棒鶏」、「エビチリ」、「チンジャオロース」や「焼き餃子」、「チャーハン」、「チャンポン」などの定番だと思われる中華が、出されていない状況で、中華を食べた時にどうな感じをしたのでしょうか。私には分からない、知ろうとする暇もありませんでした。焼き羊の料理、川魚の料理、日本語に訳せない料理に、皆さん「あっ!美味しい!」と驚いた時、私も懐かしい中華の中に何か美味な味が味わえた。





食べ物、見慣れてない町並みや変わっている人々の交わす方を始め、いわゆる異文化の中にも面白く素敵な所が見つかります。私が日本に来て感じてた事と同じ様に、日本人の皆さんも必ず何かを感じたはずです。他人の立場に加工された物を自分自身の物に変えるチャンスだと思っています。現場に来て自分の目で確かめて、五感を動かして感じて、新たな見方を身につけるかもしれません。

中国人の私でも中国で皆さんと同じ様に異文化の体験を一杯して来ました。この楽しみさは文化の深さと同じくらい表現できません。ただ一つ分かっています。今回のイベントのおかげで、日本人の皆さん及び人民大学の皆さんと強い絆を築く事でき、グローバル的な人間として、私と皆さんの人生がもっともっと広がって行くでしょう。